

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	特定非営利活動法人ケアサポートHAND'S グループホーム桃の家
(ユニット名)	北館
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県阿久根市山下4452番1
記入者名 (管理者)	池田 礼子
記入日	平成 20 年 3 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念をつくり、目標として目につきやすい場所に掲げ、毎日目を通すようにしている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念・介護理念を事務所や各々のユニットに掲げてあり、毎朝の申し送りやミーティングの時確認しあっている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	いきいきサロンや地域の筍祭りに参加して、認知症に対する偏見や正しい知識の普及に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者が一人で道路を歩いておられると、近隣の方が声かけしたり、ホームまで送ったり、連絡してくださる。野菜畑の管理人も近隣の方で、利用者と一緒に収穫の喜びや、鶏小屋の世話をしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のいきいきサロンに参加している。区費の集金、区のチラシ配布を区民で交代で行っている。	<input type="radio"/> 区の集まりや、老人会に手作りおやつを持参したりして、積極的に交流していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者・スタッフが一緒に地域の寺の清掃や下水清掃を毎週行っている。	○	地域の老人や子供たちと一緒に、おやつづくりや、ランドゴルフ等ふれあえる場所をつくっていききたい。 バイキング料理のとき、地域の方々も招待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員での評価は難しいが、業務日誌等で伝達され改善点を話し合っている。 改善計画は作成していないが、全職員で定期的に必要な事項は確認しあっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症に対して偏見を無くすために、ありのままをみてもらう機会となっている。 理解者・協力者が増えて偏見が少なくなってきた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレット配布 必要に応じて連携を取り合っている。 市町村を窓口に行っている。 必要な情報を提供してもらってサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社協を窓口を活用している人もいる その都度、社協を通じて勉強している。 社協を窓口を活用している利用者がいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はない。 言葉使いなどで傷つけないようその人を尊ぶ心に気をつけている。 身体的な虐待は皆無である。 言葉使いに注意して精神的虐待も無い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって十分に説明している 看取りケア、情報提供書、重要事項説明書、留意事故に関する説明をして同意をもらっている。 高齢者特有の不慮の事故に対する同意書や確認書を取っている。 入所時十分な説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席され、外部者への意見を述べてもらう機会を設けている。 ご意見箱を設置しており、運営推進会議等で利用者が意見を発表している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書、面会時に領収書と合わせてやっている。 定期的に報告している。又、面会時にもその都度小遣い帳、領収書等を確認して頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望には、その都度対応できるようにしている。 要望等あったときは、その都度受け入れるようにしている。 ご意見箱を設置して取り入れるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング・定例研修で意見を出し合い、検討しており改善が必要ならばその方向へと向けている。 朝のミーティング、定例研修会でテーマを決めて反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法律遵守の中で、勤務調整は行っている。 利用者のケアに支障のないよう法令遵守の中で、柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	申し送りを徹底し、利用者には支障のないよう気をつけている。 職員同士で協力し合って、申し送りを十分に支障のないようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務に支障のない限り、交代で研修に出席、復命書にて全員に閲覧できるようにしている。</p> <p>勤務に支障の無い程度に積極的に研修に取り組んでいる。</p> <p>ミーティング等で学ぶ機会を設けている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>出水・川薩連絡協議会にも参加し、情報交換をする場を設けている。</p> <p>県内同業者の視察も取り入れている。</p> <p>県内の同業施設を相互訪問しあって、サービスの質の向上を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>他のグループホームの方との交流</p> <p>住職の話聞く時間を設けている。</p> <p>年1回の職場を離れての食事会や温泉旅行を実施している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>常に管理者がおり、入居者とのふれあう時間も設けている。</p> <p>運営者は休み以外はいっしょに働いている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に実際に見てもらい本人、家族に決めてもらっている。</p> <p>入居時に聞ける範囲で状況を把握するようにしていく。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>体験入所などを勧めている。</p> <p>認知症対応型デイサービス利用後入所となる方もおられる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	デイサービス利用でなじみの関係をつくるようにしており、入所問い合わせ時ためにデイサービスを利用されてみたら？と声かけはしている。包括支援センターを紹介したりする。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用する中で、体験して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	してあげるケアではなく、ともに・・・ 教えていただいているという気持ちで接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者は人生の先輩と思って接している。 利用者と共に一緒に生活している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の残された能力があること。普通に生活されている事を伝えてあげる。そのことにより家族が利用者に普通に接してもらう努力をしている。(認知症だから・・・と思わせない。) 本人の思いを家族に伝えている。(本人の気持ちに寄り添う)利用者の生活の様子で、出来るところを家族に伝える。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、自宅やなじんでいた場所にスタッフと外出している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活不一致等があったら、2ユニットを利用し、家族の了解を得て、移動して穏やかに生活できる様に努めている。 快適な生活が出来るようテーブル配置も心がけている。 2ユニットあるので2ユニット替えを実施して生活空間を快適にする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ遊びに行ったりして歓迎されている。 サービス利用が終了した人も行事に参加していただく。他の施設から来られた方もその行事に参加している。(運動会等)	○	グループホームへ気軽に遊びに来ていただく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりから把握するようにしている。 利用者の表情や言葉から引き出せず。 面会の家族にも本人や家族の思いを聞くようにしている。 思いや希望があれば記録に残し、ミーティングで話し合い把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	数名の利用者はスタッフと一緒に自宅に帰ったりこれまでの環境を知ることにも努めている。 自宅の仏壇や使用していたタンス、家族の写真等居室に置いてなじみの暮らしができるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来るところを注目している。 その人に応じた対応をしている。 寄り添ったケア こまめに記録に残して把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に問題点の提示 それに対する対応 本人、家族、携われるスタッフ間で話し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議は開催されていないが、ミーティング等で情報交換している。 変化が生じた場合、見直しの為の話し合いを行い、新たな計画を作成している。		見直しの度に、サービス担当者会議を開催し、本人や家族の意向を尊重し、情報を共有しながら、その人にあった計画を作成し、サービスを提供していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	太極拳や音楽療法を通して、デイサービス利用者とは交流する機会を毎週設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	火災予防訓練を地域の消防組合の指導を受けながら定期的に行っている。 地域の人と一緒に畑で野菜をつくり収穫している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	重度化により、共同生活が困難になった場合、家族の意向を尊重しながらケアマネジャーを窓口話し合いの場を設けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	社会福祉協議会を窓口で成年後見制度を利用している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診がある。 本人や家族希望のかかりつけ医にスタッフと一緒に受診している利用者がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に往診していただき、密に相談・連絡をしている。変化もその都度連絡・指示を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常時勤務している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期に退院できる場合、居室はそのままにしてある。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から家族・医師を交えて、必要に応じて留意確認書を取ることにしている。看取りケアについての説明書・同意書を作成している。 重度化や終末期になった場合のあり方を日ごろからミーティングで共有している。 かかりつけ医や家族にも連絡している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りケアの確認書を作成している。 利用者の重度化した場合における対応に係る指針・マニュアルを作り対応している。 毎期の申し送り、ミーティングで話し合い、具体的にどのようなしたら良いか等の見極め、かかりつけ医の指導を受けながら検討・準備している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が帰りたいと強く希望したときは、自宅や親戚宅にスタッフと車で外出している利用者がいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレでのカーテンは閉めるようにしてあり、またスクリーンや居室でのポータブルトイレ使用時も目隠しをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者のバックグラウンドをもとに、本人の生活習慣や趣味を活かせる働きかけをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の望んでおられるよう行動していただき、特に強制して職員の都合に合わせていない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む店にはいっていないが、月1回、ビューティーヘルパーに来所してもらい、希望を言える方は本人より伝えてもらっている。 買い物の時間を作り、本人の好みの洋服をかう。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物がある日は、別メニューに変えたり、利用者の能力に応じた盛り付け、配膳の準備を1日の中でも最も職員の多い昼食などに取り入れている。 利用者の好みに合わせ、利用者と職員と一緒に準備し、片付けをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の意向を取り入れ、メニューによってはビール・焼酎を出している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	状態に応じて、無駄なものは省いたり、記録を通して時間を見ながら誘導を行っている。 下剤服用者もなるべく失敗のないようお互い排便の有無を送っている。 排泄チェックしていて、それにより自分でいけない人は誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立の方は、本人の希望に添って一番風呂に入ったり、入浴拒否のある利用者にはタイミングを見たり声かけの工夫など行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	主治医との連携により、必要に応じては導眠剤を用いたりして夜間はぐっすり休んでもらうようにしている。 眠いときはいつでも昼寝ができたり、夜も湯たんぽを使用したり、エアコンや加湿器で室温調節に心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に応じた家事の手伝いを取り入れているが、出来るであろう利用者へも目を向けて楽しさを与えていける環境を作っていく。 能力に応じた役割をしている。(掃除、洗濯物干し・たたみ、食事の準備) 太極拳・音楽教室・散歩・買い物等、定期的に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングでは、サイフに1000円程度を入れて持たせる。精算時は傍に付き添い、利用者になるべくサイフから支払いをしてもらうようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅に帰ったり、お寺におまいりしたり、ある程度の本人の希望には応えている。 天気の良い日は戸外へ散歩に行き花や畑を眺めたり、ドライブしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1泊で温泉旅行に行っている利用者がある。 季節ごとに外出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人にかわり管理者より手紙での状況を知らせたり、必要に心じての連絡は常にしている。 自分で手紙を書いてスタッフがポストに出している。 家族から便りが来る利用者がある。 自宅の電話からいつでも家族に電話している利用者もいる。 公衆電話を利用して家族に電話している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間を決めていないので、いつでも訪問・面会でき、希望があれば食事と一緒にしている。 新茶も居室・リビングで一緒にしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為については把握をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	申し送り中は目が届かないので、施錠をしているが、それ以外は出入り自由のように開放してある。 居室、玄関はカギをかけていない 玄関は出入りの際はチャイムがなる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全職員、他のことをしながらも全入居者への気配りに心がけている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	スタッフ間の連携を取りながら常に入居者への様子に気配りをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	昼夜に分けて地域の消防組合の指導を受けながら定期的に火災消防訓練を受けている。 研修・ミーティング等で事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルが配布されている。 過去・実際にあった時の対応の良かった点、悪かった点を反省しながら研修・ミーティング等で事故防止に努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については訓練を行っているが、その他の災害の対応策は不明な点が多いと思う。 地域の消防組合の指導を受けて避難訓練を定期的に行っている。 地域の区長の奥さんも職員として働かれているので地域の人々の協力を得られやすい。	○	地元消防団の協力を得て、地震・水害の災害時の対応を学ぶ機会をつくって行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に留意事故に関する説明を行い、同意してもらっている。 利用者の状況に応じて、常に起こりうるリスクについては主治医からも説明してもらっている リスク対応に関する契約書類を家族等と交わしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと違うときは管理者に報告。 主治医より指示をもらっている。 体調の変化や異変はその都度スタッフ間で連絡・共有しあい管理者に報告、場合によってはかかりつけ医に報告・指示を受けて対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌・薬情報で理解している。 新しい薬についてはその都度説明がある。 勤務交代時、症状の変化を共有している。 服薬の目的、用法用量については、服薬カレンダーを作ってはっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食べ物は柔らかくしたり、普通食にしたり 水分補給に心がけている 運動・水分補給を積極的に行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいの声かけ、必要に応じての介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が職員として働いており、1日のカロリー摂取量、食事量、水分摂取量、記録して確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者・職員はインフルエンザ予防接種を受けている。 感染症マニュアルを作成している。 予防・取り決めができています。 アルコール消毒や手洗いを励行している。	○	感染症マニュアルをもとに、全職員で学習して予防・対策に努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんは毎日漂白し清潔にしている。 新鮮で安全な食材を使用するため、地元の店より配達をお願いし、その都度使いきったり保存に気をつけている。 管理栄養士が職員として働いており、常に予防管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近辺は畑が多く、車もほとんど通らない 玄関まわりはロータリーになって安心して出入りができるし、入りやすくスロープもある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周りは田舎で山や畑が多いので窓から季節事の花や果物の木や野菜畑が眺められ鳥のさえずりが聞こえる。 季節事の花が飾ってある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にはソファや廊下に長いすを置き、また横になりたい人は、リビングに畳のところもある。 リビングは気のあったもの同士が座るようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたものを持ち込んでもらうように声かけはしている。 面会時にも、積極的に声かけするようにしている。 自宅で使っていたタンス、仏壇、写真等置いてある。オルガンも置いてあり、弾いておられる利用者もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計などを設置し、常に温度調節にも努めている。 居室の温度をみながら、エアコンを使用したり、湯たんぽを使用したりとその都度対応している。 臭いにも気をつけ、消臭剤や茶殻を使用して消臭へ努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、スロープを必要に応じて使用している。 段差のあるところは声かけ、介助して事故防止に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の名前がわかるように三角柱の表札と入り口の名前も大きく張ってある。 夜間トイレのかえり居室を間違いやすい人は居室へ入るまで、入り口を点灯する。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の端にベランダを作り外を眺めたり、中にはサンデッキをつくって入居者同士交流やレクリエーション・運動会等できる。		

V. サービスの成果に関する項目

項目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	② ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ① 豊かな自然と触れ合いながら散歩できる環境にあり、利用者の癒しの場となっている。
- ② 地域住民に慕われている施設であり、住民との交流もさかんである。
- ③ 桃の家は「水もおいしく、ご飯も美味しい」と、利用者にも絶賛されている。
- ④ 中庭でバイキングの時は、糖尿病で食事制限されている方も、お腹いっぱい食べて、大満足していただくことで、生きる意欲の手助けや行動障害の緩和になっている。
- ⑤ 利用者の笑顔から見えるものは、居心地よさは100点満点。